

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	15	学校名	岐阜農林高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	農林業をリードし、地域や社会の担い手を輩出してきた高校として 企業、大学等と連携した探究的な学びや高度で専門的な学びを通して 地域や社会の課題解決に貢献できるスペシャリストの育成を目指す学校
------------------------	---

学校教育目標 (教育方針)	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を慈しみ、他を思いやり、地域や社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びを深めるための教科等横断的な学習の推進 ・主体的な生徒を育成するための教育活動の実践 ・伝える力、協働する力、創造する力をもつ自律した生徒の育成
----------	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成
	進路指導	・学びと将来をつなぐ、地域と連携したキャリア教育
	生徒指導	・多様な人となつたり、関わる力の向上と心の教育の充実
	その他	・研究指定「地域産業の担い手育成総合戦略事業」「知財力開発校支援事業」の推進

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・思考力、判断力、表現力を育む主体的な学習態度の育成	施策Ⅱ-8	・生徒アンケート ・学校関係者評価	生徒の学力幅は大変広いが、一人一人の可能性を高めるための個別最適な指導を実施してきた。具体的には、日々の授業を通じた一人一人の学力の把握と、必要とする学力向上のための指導に取り組むとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に取り組んできた。特に学力不振の生徒に対する指導は粘り強く行い、学力や学ぶ姿勢のベースアップに努めた。	B	○各学科での課題研究をはじめとする専門教科の課題を探究する活動を通じて学習に対する主体性が向上し、評価に結び付けることができた。この成果は多様な進路実現にもつながっている。 ▲学力不振、欠課過多の生徒に対しては支援を手厚く実施してきたが、基礎学力の確保のためには授業時間外にも多大の時間を擁している。	B
	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	施策Ⅱ-8		情報ツールとしてのteamsの使用環境を整えた。		▲タブレットの毀損が増え、クラス全員が一斉に使用できない場面が増えた。	
	・ICTを活用した情報活用能力の育成	施策Ⅱ-9					
進路指導	・将来を見据えた主体的な進路選択の充実	施策Ⅱ-13	・生徒アンケート ・学校関係者評価	学年会と連携したLHRやガイダンスを実施することで、学年進行での進路意識の向上を目指した。	B	○学年進行で継続した進路支援ができるように、学年会と連携した企画の提案、実施をすることができた。	B
	・個々の生徒に応じた進路支援の充実	施策Ⅱ-13		担任、学年会、学科と連携し、1人ひとりの生徒の適性や希望に合った進路実現を目指した。		○担任を中心として個々の生徒に応じた進路支援を行い、進学、就職いずれも高い希望が達成できた。	
	・将来の地域産業を担う専門的職業人の育成を見据えたキャリア教育の推進	施策Ⅱ-13		職業観、勤労観を育成するために、課題研究・インターンシップ等を通して大学等研究機関や地域産業との関係を維持することで、生徒の多様な進路希望を踏まえた適切な進路選択に導くことを目指した。		▲より高い目標の進路実現を図るため、学校全体での組織的な支援体制の構築と将来の岐阜県の農業と農業教育を支える人材育成の観点での確かな進路支援が求められる。	
生徒指導	・自他の個性を尊重した共感的な人間関係の育成	施策Ⅰ-1	・生徒アンケート ・学校関係者評価	・登校指導、MSリーダーズ活動を通して、挨拶の啓発を行った。	B	▲全体的には落ち着いているが、規範意識や社会性を育て、学校への帰属意識を高める必要がある。	B
	・生徒の安全と命を守る教育の推進と個々に応じた教育相談の充実	施策Ⅰ-1		・心のアンケート、いじめに関するアンケートを通して、生徒の実情を把握した。		○いじめ事案に対して、組織的かつ緻密に対応することができた。	
	・教育活動における自己肯定感や自己有用感の育成	施策Ⅰ-1		・生徒主体で校則の見直しを進めた。		○生徒と職員が話し合う場を設け、両者が納得のいく形で校則を改正することができた。	
その他	・地域資源や知的財産を活用した探究的な学びの実践	施策Ⅱ-8	・生徒アンケート ・学校関係者評価	・「課題研究」等を通して課題発見・解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身に付けさせた。	A	○知財力開発校支援事業を活用し「課題研究」等における課題発見・課題解決学習の充実により、校内外における様々な活動を通して、主体的に取り組む中で自発的・創造的な学習態度を身につけさせることができた。	A
	・大学や企業等と連携してふるさとの活性化に向けた課題研究の推進	施策Ⅱ-8		・目指す資質や能力を明確にし、系統的・体系的に大学や研究機関等との連携事業を実施し、科学性の高い研究課題の発見や解決につなげた。		○3本柱に基づく特色と活力ある学科作りやキャリア教育を実践することで、地域資源を活用し、産業界や大学等との連携の深化を図ることができた。	
	・地域課題の解決に向けた主体的な行動力や実践力の育成	施策Ⅱ-8		・農業科職員の研究とプロジェクト学習のレベルアップを行い、地域課題の発掘や地域と連携したプロジェクト活動の推進を図るために職員研修会を実施し、資質向上を図った。		○地域課題探究型学習推進事業を活用し、集合型研修を複数回実施し、基礎から発展的な内容を取り扱い、農業科職員の資質を高めた。	

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月30日 学校関係者評価 実施日：令和8年1月30日

・生徒一人一人の基礎学力の定着を図り、生徒一人一人の「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。
 ・多様な生徒に対する公正の観点に立った授業と評価を実施し、生徒一人一人の能力を高める取組をさらに充実させる。
 ・より高い進路実現を図るために校内における組織的な支援体制を構築するとともに、外部の研究機関や地域産業との連携の下、将来の岐阜県の農業と農業教育を支える人材育成の視点からの確かな進路支援を行う。
 ・様々な教育活動を通して、規範意識や社会性を育てることに留意するとともに、学校への帰属意識を高める取組をさらに充実させる。
 ・県教育委員会の「地域産業の担い手育成総合戦略事業」や特許庁の「知財力開発校支援事業」を通して、専門的知識・技術と課題解決能力を兼ね備えた地域産業の担い手（リーダー）を育成する。

・生徒が本校に入学した動機は様々だが、どの生徒も本校で将来の夢や目標を見つけているのが素晴らしい。
 ・学習指導・進路指導のいずれの目標・具体的な取組にも、「主体的」という言葉が使われており、何に取り組むのかを決めるところから生徒に軸をおき、生徒の発想を大切に育てようとしているところが素晴らしい。
 ・「生徒指導」の目標に「個性の尊重」という言葉が使われているのが、何とも温かく感じられる。個のニーズに合わせた支援、バックアップが出来ている。
 ・教員の、地域と密接に連携して農業の担い手、スペシャリストを育てるのだという気概が伝わってくる。それが生徒の学習成果として確実に表れている。
 ・生徒たちを誰一人として取り残さないという姿勢で丁寧な指導を行っている。今後是非継続してほしい。
 ・自分がやりたいことが分かっている生徒がいる一方で、就職したいのか進学したいのかも分からず悩んでいる生徒もいる。何百人もの生徒に対して何百通りの進路支援が行われており、成果に結びついている。